

県立高校再編・整備計画【三次】案の現状と今後の展開

教頭 佐久間 啓史

令和 4 年 5 月 24 日に開催された長野県教育委員会第 1090 回定例会において、現在進められていく県立高等学校の「再編・整備計画【三次】(案)」(以下、「三次案」)が公表されました。これにより、第 2 期となる再編・整備計画(案)が出そろつたことになります。「三次案」では、本校を含む旧第 11 通学区及び旧第 12 通学区の再編・整備計画(案)が示されます。本校はその対象校となっていることが明らかになりました。このことについては、同窓生のみなさまも新聞等の報道により御存じのことと思います。

県立高校の再編・整備計画は、高校改革の一環として位置づけられており、激変する社会や進行する少子化に対応し、次世代を担う子どもたちのための学びの環境を整えることが目的です。特に少子化の影響は甚大で、2017 年には基準とした場合、2030 年には県内の高校入学予定者数が約 4000 人減少することがわかつています。学級数に換算すると、約 100 学級(1 学級 40 名として)

減少することになります。本校は令和 4 年度入学者選抜で 5 学級の募集でしたが、本校の規模で 20 校分の募集を停止しなければならないことになります。再編・整備を実施しなければ、県内のある高校が小規模校化し、教育活動に大きな支障が出ることは明白です。

このことを踏まえ、旧第 11 通学区の再編・整備について、本校と田川高校の統合が案として示されました。現在の案では、2 校を統合して新たに「総合学科」新校(以下、「塩尻新校」)を設置することとされています。「塩尻新校」は、「希望進路や興味関心に基づいて自分だけの時間割を主体的に創りながら自らのキャリアを構想する『キャリアデザイン高校』」とされ、地域資源の活用による探究活動の実施、総合教育センターと連携し、県内各校にオンライン授業を配信するセンター的機能を備えた高校が構想されています。

本校は県下初の総合学科高校として 23 年の歴史を持ち、長野県における総合学科のリーディング校として教育実践を積み重ねてきました。それは簡単にいえます。また、「シオジリ学」や「総合研究」に象徴される地域に根差した探究活動にも取り組んでいます。

した。その中核にはキャリア教育があり、生徒一人一人が自らの「キャリアデザイン」に取り組んでいます。また、「シオジリ学」や「総合研究」に象徴される地域に根差した探究活動にも取り組んできました。現在のようにネット環境が充実する前から、南木曽町の蘇南高校、旧白田町の佐久平総合技術高校創造実践科と遠隔授業システムを用いた連携授業を実施してきた実績があります。

このように、「三次案」で示された再編・整備計画を「素直に」解釈すると、本校のこれまでの取組を踏まえたかのように受け取れます。本校は県内で最も歴史のある総合学科高校であり、他の総合学科高校の模範となってきた高校です。そのため、本校のこれまでの取組と県教育委員会が想定する「塩尻新校」のイメージとが重なるのは当然かもしれません。

しかしながら、ともに地域に深く関わりながら歴史を重ねてきた 2 つの高校を統合するのは簡単なことではありません。歴史の長短はあれ、本校も田川高校も地域の期待を背負い、それに応えるため、教育活動に取り組んできました。そこには地域の期待だけでなく、学校に関わった人々の思い、とりわけ生徒・同窓生の方々の思いが込められています。それは簡単にいえます。また、「シオジリ学」や「総合研究」に象徴される地域に根差した探究活動にも取り組んでいます。また、「キャリアデザイン」に取り組んでいます。また、「シオジリ学」や「総合研究」に象徴される地域に根差した探究活動にも取り組んできました。現在のようにネット環境が充実する前から、南木曽町の蘇南高校、旧白田町の佐久平総合技術高校創造実践科と遠隔授業システムを用いた連携授業を実施してきた実績があります。

今後、「三次案」が県議会での議論等を経て成案となつたところで、県教育委員会は「新校再編実施計画懇話会」(以下、「懇話会」)を設置し、本格的な議論をスタートさせます。「懇話会」には市町村や産業界からのみならず、生徒・保護者・教職員、そして同窓会のみなさまに参加していただることとなっています。同窓会のみなさまにおかれましては、ぜひ懇話会に積極的に関わっていただき、2 校の歴史を継承するとともに、本来の目的である「激変する社会や進行する少子化に対応し、次世代を担う子どもたちのための学びの環境」をよりよいものとするための議論に参加していただきたいと思います。校地をどこにするのか、校名や校章・校歌はどうするのか、といった歴史の継承に関する課題から、未来の子どもたちのためにはどのような学校をつくるべきなのかという「塩尻新校」のあり方についてまで、検討すべき課題は多岐にわたります。同窓会のみなさまのお力添えを賜れば幸いです。